

ひきじだい

令和3（2021）年4月30日

皐月（5月）号

大和市立
引地台小学校
HIKIJIDAI ELEMENTARY SCHOOL

「言葉は薬」



桜の花に歓迎されて始まった新年度も、新緑の季節を迎えました。新一年生も加わり、子どもたちは毎日の学校生活を生き生きと過ごしています。

保護者の皆様、地域の皆様、新型コロナウイルス感染症対策に関し、ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、先日、登校時に校門で、見守りをしていると、子どもたちが進んで「おはようございます。」と挨拶をしてくれました。その一言で、私の心は晴れやかになりました。1つの挨拶、1つの言葉が、こんなにも自分の心を明るくしてくれることに改めて気づかされました。

一方では、「ださい。」「死ぬ。」などの否定的な言葉が携帯メールやスマホのサイトに書き込まれて、子どもたちがそのことでショックを受けて、学校に来られなくなったり、時には命を絶ったりするということが、ニュースなどで取り上げられています。

現代では、『言葉』があまりにも軽々しく扱われ、多くの人々の心を傷つけているように思います。

イギリスの作家で「ジャングル・ブック」の著者であるラドヤード=キップリングは、「言葉はいうまでもなく、人類が用いる最も効き目のある薬である。」と言いました。

薬は使う人が正しい使い方をすれば、病気やけがを直したり、命を助けたりすることもできますが、使い方を間違えると、命をも失う危険さえあります。それと同じように、『言葉』も使い方によっては、相手を癒すこともできるし、相手を傷つけることもあるのです。

人間は、相手からの温かい言葉を受け取ることによって、励まされ、勇気づけられ、自信を深めていきます。逆に、冷酷な言葉を浴びせられることによって精神的に落ち込み、自信をなくしてしまいます。

また、たった1つの言葉が人間関係を崩したり、回復させたりすることもあります。

私たちは、「ありがとう。」「うれしい。」「楽しい。」「感謝しています。」「すてき。」「最高。」「幸せ。」「すごいね。」「よかったね。」「がんばっているね。」など、相手を包み込むような温かい言葉をかけていきたいものです。言葉の力を上手にを使って、子どもたちの笑顔があふれる学校となるように心がけていきたいと思います。5月もどうぞよろしくお願いいたします。

（校長）

～児童支援中核教諭・教育相談について～

大和市内小学校に児童支援中核教諭が配置されております。主な役割は、

- ①困っている児童への支援
- ②児童間のトラブルなどの指導
- ③担任・保護者・子どもとの相談
- ④関係機関との連絡・連携

本校では、吉川清美（よしかわきよみ）総括教諭が担当しています。

また、青少年相談室より派遣される専門の相談員が、学校での相談を承っております。

昨年より引き続き、本年度も小笠原アンナミカエラ相談員が担当しています。毎週火曜日、第1・3木曜日が相談日になります。

児童に関する困りごとや相談がありましたら、学校へご連絡ください。